

## ハンドボールプレーヤーがホームセンターで気になるアイテム

ハンドボールは、運動の基本要素である「走る」「跳ぶ」「投げる」を網羅したスポーツで、激しいボディコンタクトや、スピーディーでダイナミックな試合展開は、参加する人にとっても、見る人にとっても、とても魅力的なスポーツです。ドリブル・フェイント・シュートなどの力強く巧みな動きとともに、人とボールが高速スピードで連動するパスワークやチームプレーの優雅さもハンドボールの醍醐味です。

ハンドボールは名前の通り、手を使ってボールを投げ、シュートをします。プレーヤーはハンドボールを掴んで（握って）から投げています。ハンドボール独特のパスで「ラテラルパス」というパスがあるのですが、このパスは、片手でつかんだボールを手首の瞬間的な返しで投げるパスで、肩を使わないで腕と手首のスナップで投げるので思い立ったらすぐ投げることができること、ショルダーパスなどに比べてモーションが小さいので相手にパスコースが予想されにくいことが特徴で、素早いパス回しの基本となります。しかし、このラテラルパスはボールを掴む（握る）ことできないと正確なパスが出せません。小学生や手の小さなプレーヤーにとっては苦手なパスとなります。そこで、手の小さなプレーヤーの秘密兵器として登場するのが、ホームセンターで気になるあのアイテムなのです。

ハンドボールプレーヤーが気になるアイテム、その正体は「両面テープ」です。カーペット・マット類の固定用の布製の厚手の両面テープを指の第1関節、第2関節あたりまでテーピングを上から、巻きつけます。そして、両面テープの粘着力をグリップ力に変えることで、ボールを掴むことが可能となるのです。両面テープを、ボールを握る為の補助用具として使用することは、ルール上も認められています。実際にはボールを握れるプレーヤーも、グリップ力を増して、シュートスピードを増すために使用しています。しかし、粘着力が強すぎると、ゴールにシュートしたつもりが、指からはなれなくて床に叩き付けてしまったり、プレー中に指から抜けた両面テープがボールに引っ付いてしまうなど、ハンドボールならではの珍プレーを度々見かけます。それ故に、各プレーヤーは「両面テープ」のメーカーや、巻き方にそれぞれこだわりが持っています。もしも、ホームセンターで「両面テープ」を真剣な眼差しで見つめている人を見かけかけたら、その人はハンドボールプレーヤーかもしれません。

終わりに、藤沢市ハンドボール協会は、本年（2014年）10月で30周年を迎えました。これまで協会を育てて頂き、応援して頂いた関係各方面の方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後も幅広い年代の方々にハンドボールを楽しんで頂けるように、普及発展に尽力してまいりますので、ますますのご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます。

藤沢市ハンドボール協会  
佐藤 和義